

令和3年度 第2回学校運営協議会

Ⅰ 学校運営協議会資料について

(1) 今年度の取組について

委員からの感想・意見・質問		意見や質問に対する回答
コロナ禍のため、多くの学校行事が縮小もしくは中止を余儀なくされたと思うが、オンラインの活用など、職員は創意工夫して取り組んでいた。	→	<p>コロナ禍も2年目となり、学校でできること、できないことが明確になるにつれ、職員間でのノウハウの蓄積もかなり進みました。学校行事では多くの皆様のご協力を得ながら、少しでも教育効果が上がるように工夫しながら取り組んだつもりです。</p> <p>また、児童生徒達は制約のある中で、精一杯活動に取り組んでくれました。そのことが結果として多くの表彰等につながったのではないかと思います。学校としても、児童生徒達の頑張りに感謝の気持ちで一杯です。</p>
新型コロナウイルス感染症という、これまで経験のなかった脅威に対して、安全・安心の学校環境の維持のため、難しい判断を迫られ、大変だったと思う。		
絵や作文や詩・写真・ポスター・俳句など様々な分野に取り組んでいて、豊かな感受性が育っていると感じた。		
児童生徒は様々な分野で授賞したり、資格を取得したりして、制約のある中でよく努力していた。		

(2) 各学部の取組について

委員からの感想・意見・質問		意見や質問に対する回答
<p>各学部とも情報通信技術を活用した学習や行事が行われている。「リモートで実施したことで家族全員参加したり、児童生徒の小さな動きや表情の変化を見ていただくことができた」と報告されているように、児童・生徒、学校、家族がつながる良い環境整備ができたと評価する。</p> <p>新型コロナウイルス感染の中、各学年別に行事が行われていて、先生方の指導や生徒とのふれあい、又コミュニケーションがしっかりと取れている。</p> <p>GIGAスクール構想に向けて、教材も整ってきたと思う。今後はますますICTを用いた授業が進んでいくので、ロボットプログラミングコンテストで小中学部のI課程の生徒が参加して他県の生徒と交流したように、これからは遠くの人と交流をしてほしい。訪問教育でも、一人一人に応じた学習が出来ていると思う。</p> <p>コロナ禍の中、行事等への取り組みも出来る事、出来ない事もいろいろ工夫(バーチャルでの体験)されていると感じた。コロナ禍の中でも「今できること」に目を向けた取り組みを行っているという事で、大変素晴らしいことだと感じた。</p>	→	<p>昨年も申し上げましたが、コロナ禍の数少ない利点は、ICT機器の整備や活用が進んだことです。職員がその利便性を体感することで意識が高まり、昨年度にまして、様々な場面でICT機器を使用しています。授業ではもちろん、校内外の会議や、保護者との情報共有でも非常に有効です。全国的にもオンラインの教育活動のメリットが浸透しつつあり、御意見にもありますように、今後は県の枠を超えた交流の機会も増えていくのではないかと思います。</p>

小中Ⅱ課程	<p>○文化祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童たちの各々のできることを活かした活動ができていたと感じた。また、中学部の生徒のオリジナル劇では、自分たちの創り上げた動画の記録による振り返りの取組がなされており、自己表現の客観的な観察につながる取組として評価できる。 ・病気のお母さんを励ますための劇が良かった。 <p>○ロボットプログラミングコンテストの九州大会出場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内予選を勝ち抜き、学校を越えたチャレンジができて良かった。 ・参加した子ども達も、応援の子ども達も盛り上がったという記述や、作品応募で、生徒たちの頑張りを後押しする大きな励みになったという記述にとっても嬉しくなった。 <p>○児童生徒会役員選挙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動のひとつとして、校内の役員選挙の取組ができて、社会参加に向けた活動につながる一歩だと思う。児童生徒が、どのような観点で投票するのか、考える力が身につく取組として、単なる行事としてではなく、身の回りにかかわる大事な仕組みであることを理解するきっかけになればと思う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想が進む中、ICTデジタル活用など汎用のアプリなどが少ない状況で、現場の先生方のご苦労が推察される。個々の学校任せではなく、教育委員会や支援学校のネットワークを活用した支援体制が早期に構築されることを望む。学外への働きかけも重要になってくると思う。 		<p>学校行事につきましては、精選する一方で、子ども達の学校生活の充実、自己肯定感の向上や、将来の社会生活の準備に不可欠であるため、今後も必要な行事は可能な範囲で工夫して行いたいと考えております。</p> <p>ICTの活用については、各学校がそれぞれで取り組んでいるのが現状ですが、→ 先進的な取組については全体的に研究発表等で情報共有がなされており、今後全ての教育活動でICT機器の活用が前提となることで、更に県立学校としての機器活用のノウハウの蓄積が進むと思われます。また、幸いなことに、本校は隣に熊本高等専門学校があり、これまでも多くの御支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。</p>
小中Ⅲ課程	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの取組がなされており、より多様な観点からの指導目標と手法に関する改善を図っていることが分かった。学習到達度のコンピテンシー評価など、より具体的な取組となるように期待したいと思う。 ・ZoomやiPadを活用した共同学習や学習発表会が実施されており、新型コロナウイルス感染拡大予防に対する配慮がなされている。学習を止めない教育として今後もしばらくは主流となると思うので、デジタルツールやアプリを活用した授業対応も引き続き取り組んでほしい。 ・カリキュラムマネジメントは、多くの利点が見られている。iPadを活用して、細かい動きを操作できるアプリやスイッチを使用した学習に取り組んでいるということ、工夫指導される先生方は大変だと思うが、子ども達の成長につながる分野が益々広がっていくことを願っている。 		<p>→ 重複障がい学級であるⅢ課程は、デジタルツールの恩恵を最も受けやすいのではないかと考えます。今後もPDCAにより、教育課程の改善に取り組んでまいります。</p>
小中訪問教育	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で個々の児童間のコミュニケーションがとりにくいなか、ZoomやMeetなどのオンライン機能を活用した取組が行われている。障害に応じた意思伝達装置の導入や使い勝手のよいスイッチの適用など、ICTやデジタルを活用した改良や改善がさらに児童生徒の個別活動の後押しになるような工夫や取組を期待する。 ・各学期ごとに目的をもって取り組まれており、多くの製作物がきれいにでき上がっているのがすごいと思う。手指の動きを増やす取組や、身体の部位に気づく取組など、個別的な学習も個々の状況に応じて行われていて、保護者の方も喜ばれているのではないかな。 		<p>→ Ⅲ課程同様、訪問教育も教育活動でデジタルツールの有用性が高いと考えます。コロナ禍以前から、デジタルツールや様々な電子機器を活用して、児童生徒の一人一人の状況に応じた教材の作成や指導方法を改善してきました。今後も更に専門性を高めながら、改良改善に取り組んでいきます。</p>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動行事などの手配や準備を、生徒自らが企画・運営できたことは素晴らしいと思う。自主性を育む教育が高校生の年代では特に重要で、主体的な学校活動への取組とチームワークが必要なイベントや企画を今後も取り入れて行ってほしい。 ・3年生の進路決定に至るまでには、大変な苦労があると思う。3年生のほとんどが進路が決定して、生徒も保護者も安心されていることだろう。体験や見学が思うようにできない中でも、生徒の実態や希望に応じた取組がされている。 ・修学旅行や校外学習が中止となり、生徒たちは大変残念だったと思うが、代替案として取り組んだ出張プラネタリウムなどは、普段では体験できないので貴重な体験ができ良い取組だった。 		<p>→ 生徒が自ら取り組む活動は、生徒の達成感や自己肯定感を高める貴重な機会ですので、今後も取り入れていきたいと思えます。コロナ禍でなければ学外で実施されていた様々な活動は、状況に応じて従来通り実施したり、形態を変更して実施したりと工夫しながら取り組んでいます。(1)でも記述しましたが、コロナ禍も2年目となり、それなりのノウハウが蓄積されましたので、学習効果を少しでも落とさないように取り組みたいと考えています。</p>

(3) 令和3年度学校評価アンケート集計結果について

委員からの感想・意見・質問		意見や質問に対する回答
保護者アンケート	過去3過年度85～88パーセントの高い数値を維持しており、素晴らしいと思う。施設整備の環境面が整うと更に満足度が高まると思われませんが、それにしても学校側の不断の努力の結果だと思う。今後とも頑張してほしい。	→ 保護者アンケートで一般的に良い評価を得ることが出来たのは、コロナ禍にあって、学校と家庭が更に緊密に連絡を取り合い、その結果、ご指摘のとおり信頼関係が深まった結果であると考えております。また、保護者や学校運営協議会の委員の皆様、各関係機関の皆様の御理解と御支援によることも大きいことは、職員全員が認識しております。 老朽化が進む施設・設備につきましては、昨年度も申し上げましたが、少しずつではありますが県教育委員会と協議をしながら、改善を進めているところです。 学校と地域の連携に関する評価が他の項目と比較して低いのは、コロナ禍による校外活動の制限や、本校児童生徒が全県下から来ており、各家庭の地域との連携が難しいことの影響があるかと思えます。ただ、本校の広報活動の不足によることも少なくないと思えますので、ホームページ等を通じた広報活動の充実に努めてまいります。
	前年度と比べても、評価が上がっているので良かった。児童生徒も、先生方も、一人一人に応じた学習取組ができていて、熱意も感じられ、生徒の気持ちも明るく、向上心もあり、良い方向に向かっていると思う。	
	達成度は、ほぼ例年通りの結果である。8割から9割の保護者が学校の運営に関しては高い評価をしている。保護者と学校の先生、教職員の方の信頼関係が築けていると思う。	
	保護者からの評価は、旨ね高評価が見てとれる。しかし、「教育活動に必要な施設・設備が整っている」という設問と、「学校と地域との連携がとれている」という設問では、「そう思う」人の割合がやや少な目である。	
	「本校に入学させて良かったと思う」のパーセントの高さ、これに全てが表れていると思う。	
職員アンケート	全体的に以前よりも良くなっている印象を受けたが、職員アンケートで職員の働き方改革に向けての取り組みについては、40%近くの職員がやや不十分・不十分と回答しているところが気になった。多忙を極める現場で仕事量を減らしていく事は中々難しいと思われるが、少しでも職員に見える形で実現できれば良いと思う。	→ 御指摘の通り、職員の自己評価は厳しめの傾向があり、自ら達成したことは適正に評価をしようと職員には日頃から伝えているところです。もちろん課題は先送りにせず、少しずつでも着実に解決に向けて取り組んでいきます。また、コロナ禍での経験は、今後も様々な場面で活かしていきたいと考えております。 働き方改革への取組については、ここ数年、様々な側面で取り組んでまいりましたが、スコアの低さは、コロナ禍への対策、新学習指導要領への対応や、GIGAスクール構想に基づいた情報機器の一斉導入等による職員間での負担感の影響が少なからずあると思えます。ただ一方で、日々の業務の中で自分のできる範囲で小さな業務改善を積み上げる、という意識を職員間で高めなければならぬ、とも考えております。今回のアンケート結果を受け、再度各分掌部で課題を洗い出し、どのように対処するかを全職員で共有しました。また、それを、来年度の各個人の業績評価で具体的な目標設定につなげるように共通理解を図りました。
	自らの努力は認めておられるものの、さらに改善したいという向上心の表れで、やや厳しい評価をされている。常に改善していこうという姿勢は重要だが、出来ていることと、新しく取り組めたことについては、自らの努力を認めても良いのかなと感じた。謙虚な気持ちは大切だが、個々の取組に対して、客観的な教員相互での「振り返り」を行い、達成できたことについての加点ポイントも必要と思う。	
	コロナ禍の中、「授業の充実の達成」は、先生方一人一人が考え工夫された結果だと思うし、生徒の事を第一に考えていると感じた。また、全体的に「十分達成できている」のパーセントが低いのは、コロナ禍の影響が大きいのかなと感じた。しかし、この2年間でずいぶん学んだことも多いと思うので、次年度に活かしていきたい。	
	いずれも達成度は高いが、学校内での働き方改革が課題のようだ。新学習指導要領で求められる授業改善と関わりがあるのだろうか。	

(4) 令和3年度学校評価表について

委員からの感想・意見・質問		意見や質問に対する回答
目標に対する具体的方策並びに成果と課題が学校全体のこととして捉えられているので、各自己評価の内容は適正であると考えます。		
4つの重点目標について、それぞれしっかりとした取組がなされていた。		
自己評価結果に異論はない。今後とも客観的な視点で厳しい自己評価に取り組むことで、学校内外の信頼や評価にもつながると思う。	→	評価を認定していただきありがとうございます。委員の皆様の御指導、御助言を賜りながら職員の一人一人が努力した結果、一定の成果を収めることができたのではないかと考えております。次年度も具体的な目標を設定し、達成とその後の改善に結びつけられるよう、努めていきたいと思っております。
新型コロナウイルス感染症が長期化する中、医療機関と連携しながら最大限の感染対策を行い、学校関係者の感染時も適切、且つ、迅速な対応で生徒の安全が守られたことは評価に値すると思う。また、命の大切さや支えてくださる方々への感謝など、人権教育もしっかり出来ていたと思う。		
コロナ感染対策をしながら、新しい事へも取り組んでいることに感心した。評価Cがないことも、児童生徒のために頑張りたいという職員の気持ちを感じた。		
学校運営については概ね良好な取り組みがなされていると思う。病弱系の支援学校のために、コロナ禍の状況ではインターネットを活用したICTのデジタルでの遠隔対応が重要になっている。現在、新種のウイルスやランサムウェアなどがメール等で感染する状況にあり、USBメモリの管理やノートPCの管理など情報セキュリティの対策チームを立ち上げるなどの対応も検討が必要になっている。ネットセキュリティの強化と継続的な対策をお願いする。	→	ネットを介したウイルス等のリスクは、これまでも県教育委員会から注意喚起がされているところです。本校独自で対策チームを作ることは、人間的にも、技術スキルの面からも難しいので、県教育委員会の指導のもと、そのセキュリティガイドラインに則って対応してまいりたいと思っております。その際、専門家の立場からの御助言をいただければ有り難く思います。

(5) 本校における新型コロナウイルス感染症対応について

委員からの感想・意見・質問		意見や質問に対する回答
県や医療機関と相談しながら、しっかりとした感染対策がとれている。メールによる家庭への連絡も適切で情報共有ができており、保護者へ安心感をもたらしている。	→	今後とも医療機関等に御助言を仰ぎながら、可能な限り客観的な根拠をもって対応してまいります。
新型コロナは変異を繰り返しており、その都度状況に応じた対応が必要となるが、これまで同様、十分な感染対策をお願いする。		本校は病弱支援学校で、様々な症状の児童生徒がおり、感染状況によっては登校を自粛される御家庭もあります。御家庭の安心に少しでもつながるよう、また、学びを止めないためにも、これまで同様感染対策を継続いたします。
感染力の強いオミクロン株が確認されて以降、分散登校や休校等の対応は本当に大変だと思う。自主的に登校自粛されている家庭はあるか。	→	

2 その他 資料以外に関すること

委員からの感想・意見・質問		意見や質問に対する回答
高専ではICT機器の支援も進めているが、支援ツールもいくつかできているので、コロナ禍が落ち着けば相談したい。	→	大変お世話になります。よろしく願いいたします。
車で走る際は、熊本電鉄バスの後方を眺めながら、50周年記念のステッカーを探したい。	→	本校職員が2月末にポリテクセンター熊本付近で初めて見かけました。広告は今年の12月まで掲出されております。台数が少ないのでなかなか出会うのは難しいとは思いますが、気にとめていただければ幸いです。